東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年6月13日

罪や疑わしい事柄から遠ざかっていること

親愛なるムスリムの皆様。神の命令や禁止事項に従わない信条、言葉、動作、振舞いによって私達の教えで過ちだと見なされているものを、罪と呼びます。人は過ちを犯すことがありえます。これは人の天性に含まれる特質です。アッラーの御前において人を尊いものとするのは、こうした過ちについて悔悟することです。預言者ムハンマドは、「人は皆過ちを犯す。罪を犯した者のうち最も尊いのは、それを後悔し悔悟する者である。」とおっしゃられているのです。

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは偉大な書クルアーンと私達の導きである預言者ムハンマドを通し、行なうことが禁じられている行動について教えられ、信者がそれらを避けることを求めておられます。人はこの命令や禁止に従っている限り道を逸れることはなく、現世と来世での幸福を得ることができ、そしてアッラーが愛されるしもべ達の中に加わることができるでしょう。預言者ムハンマドは次のようにおっしゃっています。「信仰する者よ。あなた方に二つの信託を残していく。それらにしっかり結びついている限り道に迷ってしまうことはないだろう。それはアッラーの聖なる書クルアーンであり、私のスンナである。」別のハディースでは次のようにおっしゃられています。「ハラールであるものもハラームであるものも明らかである。この二つの間に、人々の多くがハラールかハラームか確信できない疑わしいものがある。疑わしいものを避ける人は、その教えと名誉を守ったことになる。それらを避けない人は、しだいにハラームに流れていってしまう。羊飼いがその羊の群れを、他人の土地の周囲で放牧している時のように、彼がその土地に入ってしまう危険性がある。人の体には小さな肉片がある。もしそれがいい状態であれば体全体がいい状態である。もしそれがだめになっていれば、全体もだめになってしまう。その肉片とは　心臓である。」

親愛なるムスリムの皆様。罪のもたらす当然の結果の一つが、人の心を黒く染めてしまうことです。この状態について預言者ムハンマドは次のように表現されています。「しもべが罪を犯した時には、その心に黒いしみができる。もしその罪を悔やみ、それから遠ざかれば、このしみは消える。もし悔悟せず罪を犯し続けていれば、黒いしみは増え、心を覆ってしまう。崇高なるアッラーがクルアーンで述べておられる、心が穢れること、というのはこのことである。」

親愛なるムスリムの皆様。罪によって心が黒ずんでしまった人は、色々な悩みを感じ続けます。その心を精神的な穢れから清め、魂をあらゆる種類のストレスや苦痛から救いたい人は、崇高なるアッラーの次の命令に耳を傾けるべきです。「公然の罪も内密の罪も避けなさい。本当に罪を犯した者は、その行ったことに対し報いを受けるであろう。」（家畜章第120節）「だがあなたがたが、禁じられた大罪を避けるならば、われはあなたがたの罪過を消滅させ、栄誉ある門に入らせるであろう。」（婦人章第 31 節）「だが誰でも、わが訓戒に背を向ける者は、生活が窮屈になり、また審判の日には盲目で甦らされるであろう。」（ターハー章第124節）

ホトバを、最初に読んだクルアーンとハディースの訳で締めくくりたいと思います。

「かれこそは、しもべたちの悔悟を受け入れ、様々な罪を許し、あなたがたの行うことを知っておられる。」（相談章第25節）

預言者ムハンマドは次のように言われました。「しもべがその命を失わない限り、アッラーはその悔悟を受け入れられる。」

崇高なるアッラーが私達皆の悔悟を受け入れ、私達を罪から清められたしもべとしてくださいますように。